



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

新入生へのことば「Self-Help(自助)」

新入生の皆さんが入学して、早くも4か月近くが経ちました。高専5年間の最初の1年の3分の1がもう終わります。入学式で、「1年生のときに、先輩に5年間なんてアッという間だよと言われたけれど、5年生になってその言葉を本当に実感した」という、今年の3月に卒業した本校学生の言葉を紹介しましたが、皆さんもここで振り返ってみて、少し実感が湧くのではないのでしょうか。

高等専門学校は、高校とは異なり自由に使える時間が多く、勉強以外でもやりたいことができる反面、怠けがちな人には厳しい環境です。周囲から口喧しく指示を受けることが少ないため、自分で泳がずに流されていくと、たちまち留年の憂き目を見ることになります。それは高専が、中学や高校のように「教えてくれる」学校ではなく、本校の教育理念の一つである「自立の精神」に示されているように、「自ら学ぶ」ことを基本としている大学と同じ高等教育機関の学校だからです。

久留米高専は、高度な知識や技術、そして優れた先生方や先輩・学友など、人間力を高める上での「宝の山」ですが、自ら掘り出さなければ、宝を手に入れることはできません。

イギリスの医者で後年作家となったサミュエル・スマイルズが19世紀半ばに出版した「自助論」(Self Help)という本には、欧米の歴史上有名な300人あまりの成功立志談が書かれています。世界10数カ国語に翻訳されたこの本は、我が国では明治維新直後に、後に東京帝国大学(現在の東京大学)教授や女子高等師範学校(現在のお茶の水女子大学)の初代校長を務めた中村正直により「西国立志編」という書名で翻訳・出版され、福沢諭吉の「学問のすゝめ」とともに、日本の近代化を志す青年たちを中心に広く読まれ、明治時代の啓発書としてベストセ

ラーとなりました。近年では、理学博士で地球物理学の権威であった東京大学名誉教授の竹内均の翻訳版が三笠書房から文庫本で出版されており、時代や国境を超えて人の生き方を説く不朽の名著となっています。

その本の序文には、「天は自ら助くる者を助く」(Heaven helps those who help themselves.)という諺が書かれています。他人に頼らず自分自身で努力する者には、天が助け、幸福がもたらされるという意味ですが、この諺は古代ギリシアのイソップ物語にある「牛追とヘラクレス」という話に由来しています。

ある日、牛追が牛に引かせていた荷車が、谷の窪みに落ち込んでしまいましたが、牛追は自分では何もせず、自分が崇拜する怪力の神様ヘラクレスに助けを求めたところ、ヘラクレスが現れて、「車輪にとり付き、突き棒で牛を突け。自分でも何かしてから神頼みするがいい。さもないと、祈っても無駄だ。」と言ったという、依頼心を戒める寓話です。

もちろん、自分だけではどうしようもない困難な状況に直面した場合には、早めに誰かに相談することが重要であることは言うまでもありません。皆さんの周りには、学級担任、科目担当、学生相談室などの先生方や友人、先輩など、必要ときにサポートしてくれる人たちが大勢います。

5年間の高専生活を通じて、常に「セルフ・ヘルプ」の精神を念頭に置いて、自らの可能性に挑戦し、進んでより多くのことを学び取って欲しいと思います。勉強、クラブ、文化祭や体育祭などの学校行事、何でもいいですから、皆さんが卒業の時に、自分は高専でこれに打ち込んだとアピールできるものが得られるように、充実した毎日を過ごし、確固たる人生の礎を築かれることを願って止みません。

主事挨拶



知識を武器に
教務主事 和泉 直志

教務という分掌は、学生の皆さんの時間割、試験、進級、カリキュラムといった、毎日の勉強に直接係わる業務です。事務的作業は学生課の職員の皆さんが担当し、授業や試験には本校の先生方全員が関わっています。その纏め役が教務主事ということになります。8年間務められた馬越先生の後を引継ぎ、毎日の授業や試験が円滑に行われるよう務めて参りますので、よろしくお願い致します。

この教務が担当する勉強が、本校学生の皆さんの生活の中心であるはず。なぜ勉強しないといけなはいかは、始業式と1年生の夜須研修でお話ししました。学生諸君は本校を卒業後すぐに、進学予定者も数年後には、技術者として働いてお給料を貰うことになります。それは、様々な技術的問題を解決する能力に対してお金をもらうということです。この技術的な問題の解決には、工学的な知識が必要です。必要な知識が欠けているとなれば、それを自分で身につけていかなければなりません。学校で教えられることは基礎となるところだけです。知識の修得は社会に出てからも続きます。むしろ、就職してからの方が本番です。皆さんは運動能力や話芸、歌の上手さなどではなく、知識を武器とする道を選んでいるのですから、しっかり勉強して知識そのものと、知識を身につける方法を学んで下さい。

しかし、知識はそれが使えなければ持っていないのと同じです。高専は実験や実習、インターンシップなどで、修得した知識を実際に試してみる機会が多く設けられています。知識を実際に使えるというのが、高専卒業生が現場に強いと言われる、高く評価される所以だろうと思います。この知識を使っての問題解決には、体力や粘り強さ、精神力といった人間的な強さが土台となります。課外活動などで人間を鍛えて下さい。5年間頑張っていれば必ず将来は明るいものとなります。

さて、教務主事にはもうひとつ、学校内の調整役という仕事もあります。そのため、校内を行ったり来たりしております。丁度1年前からジョギングを始め、ゆっくりですが10km位は走れるようになったことが、役に立っているような気がします。学校の運営にもご理解とご協力をお願い致します。



「ごみ拾い」と「日本経済」
学生主事 辻 豊

皆さん、こんにちは。学生主事の辻です。よろしくお願いします。始業式のときに、皆さんに、「一日、一つごみを拾ってください。」とお願いしました。実践していますか？始業式の時には「気がつく」という観点で「ごみ拾い」を話しましたが、今回は「日本経済」との関連(?)を書きます。

昨年、卒業生が在校生たちに「就活時の会社選びのポイント」についてアドバイスをしてくれました。この卒業生は本校生物応用化学科を卒業後、九州大学経済学部経済工学科に編入し、現在、本田技研工業株式会社でマーケティングの仕事をしており、世界中を飛び回っています。在校生との懇談のあと、彼と「今後の日本の製造業」について話をしました。皆さんも、安い労働力を求めて日本の製造拠点が海外移転していることは御存知だと思います。彼は、「今は賃金格差が大きすぎるので、海外で製造することは仕方がないと思います。しかし、海外での製造は歩留まりが良くない。最近、賃金格差も縮まっています。格差が数倍程度になれば再び日本に戻ってきますよ。」とっていました。しかし、賃金が上がり、生活に余裕ができると、教育費に当てられます。労働力の質が向上し歩留まりがよくなると、賃金格差はそのまま残るのではないのかとの疑問がわき、彼に聞いてみました。彼の答は、「いろいろな国を回ってきましたが、日本ほどごみが散らかっていない国はありません。この精神性があれば他国には負けません！」と言い切って帰っていきました。彼は、「ごみが散らかっていない」という表現で、日本人技術者のものづくりに対する意識の高さを表現したのだと思います。ん？久留米高専は日本の製造業に優秀な人材を送り出しています。日本の製造業は久留米高専が支えているといっても過言ではないのです。ということは、久留米高専がごみで散らかっていたら？さあ、皆さん！校内のごみを拾って、ものづくりに対する精神性を育み、日本経済を発展させようではありませんか！

より良い学校にするために頑張ります。ご協力、よろしくお願いします！

主事挨拶



寮生、そして通学生の皆さんへ
寮務主事 泉本 英次



専攻科で目指すもの
専攻科主事 池田 隆

今年度は私を筆頭に、寮務主事室のメンバーの過半が交代となりましたが、寮運営に係る基本方針に大きな変更はありません。「自立の精神と創造性に富み…」は本校の教育理念の一節ですが、学生寮においても寮生会の自主性を尊重した運営としています。4月には寮生会役員も別表のとおり交代し、筑水寮は寮長の鹿毛俊貴君、つつじ寮は副寮長の高橋葉月さんを中心に、新しい体制で運営されています。

ところでこの二年間で、本校の学生寮の住環境は大幅に改善されました。昨年3月にはつつじ寮(定員30名)が全国51国立高専の最後の女子寮として竣工し、また筑水寮の全居室にエアコンが設置されました。浴室を始めとする共通スペースの整備も進み、セキュリティシステムの導入によって防犯面での改善もなされています。このような中、今春は50数名の新入寮生を迎え現員総数も177名となり、新V200プランの目標値に迫る寮生数となっています。

4月9日には対面式を終え、同20日の寮祭では球技大会の後にBBQを行いました。留学生や新入寮生を交えて、寮生間の親睦を深めてもらえたことと思います。その後も、ヘルスチェックキャンペーンでの健康テストや、外国人講師を招いての文化講演会などが開催されました。洋食のフルコースの食事が楽しめるテーブルマナー講習会及び和食作法講習会や、文化講演会などのイベントも予定されています。また全員参加の行事としては、文化委員長の内田敦之君が中心となってBBQパーティーを不定期ながら開催する計画を立ててくれています。通学生の皆さんにも年4回実施される体験入寮の機会を利用して、寮生活を垣間見てもらいたいものです。

さて最後になりましたが、5月に入って近隣住民の方から騒音を指摘されたり、門限を越えて帰寮する者が現れたり、規律の乱れが一部に見られたことは大変残念に思います。近年の就職活動では寮生活経験者が優遇されるそうですが、これも集団生活で培われる協調性や規律・礼儀正しさ故であると言われています。寮内はもとより近隣住民の方々も含め、お互いが気持ちよく生活するためにはどうすればよいか、改めて自問し、それぞれに行動で示してもらおうよう期待しています。

平成5年に設立された専攻科は20周年を迎えました。後期には記念講演などを準備中です。ご存知のように専攻科は、本科卒業後の2年間で学士(大学卒)の学位取得を目指す、機械・電気システム工学専攻(機械、電気電子、制御情報系)、物質工学専攻(生物応用化学、材料系)の2専攻を有し、これまでに564名の修了生が就職や大学院進学の道を歩んでいます。進学者の半数以上は九州大学大学院へ進学しています。専攻科生の対外的な発表も年々増加し、現在1人当たり約2件の発表を行っています。最近是国内学会ばかりでなく、国際学会で英語により発表する事例もあります。また、これまでの創造的技術者の養成に加え「実践性」も伴った技術者を育てるべく本科の教育を踏まえたより高いレベルへ進んでいます。グローバル化の時代、「あなたはコミュニケーション能力がありますか?」の問いには他国の人とのコミュニケーション能力も含まれるようになりました。実践性、創造性、そしてコミュニケーション能力の獲得は、多人数の一括教育で容易にできることではありません。これらは専攻科のように、工夫された少人数教育が得意とする分野です。今年度の例を挙げると、5月の技術英語(機電2年生、必修)ではタイの大学の先生から直接指導を受ける機会を得ています。また、8月の生物応用化学科主催の専攻科物質系サマーレクチャーではアメリカから先生を招いて英語で専門の実践指導をして頂きます。これまでも高専機構主催の海外インターンシップに本校の専攻科生が参加しています。今後も校内外の皆様の協力を得てグローバル化に対応した教育と研究の推進を図りたいと思います。専攻科の少人数教育を活かす例は、必修科目では、産業デザイン演習、創造工学実験、先端工学特論、専攻科インターンシップなど、選択科目では産業財産権特論など、専攻や出身学科の枠を超えたチームワークや地域とのネットワーク、専門性を活かし与えられた予算枠内で創造性に富むものを作り出したりするオリジナルの科目があります。パテントコンテストでの入賞や、特許を取得する専攻科生もいます。このような科目構成はエンジニアリングデザイン能力を養うのに大変適したもので、JABEEなどでも評価を受けています。このように、この20年間に培われたものを活かしながら、皆さんと一緒に活力のある専攻科を実現して行きたいと思います。

主事挨拶



継続と変化

企画主事 江崎 昇二

企画主事は、学生諸君に関わることがほとんどないので、聞きなれない役職だと思います。

業務内容は、学校の「自己点検評価及び渉外業務」に関することです。学生会で言えば、総務局と今年度からできた渉外局を合わせたような役割です。

自己点検評価は、学校のPDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルの「C」だけではなく、「P」の部分も担当します。また、渉外業務に関することは、ホームページや、この高専通信などの広報活動ならびに国際交流などの各種交流活動の推進を担当します。すなわち、企画主事は、学校の将来構想や年度計画の策定とそれらの自己点検、および外部との交流や外部への情報発信を担当することになります。

PDCAサイクルの考え方は様々だと思いますが、個人的には、長期・中期・短期のスパンでサイクルを回し、スパイラルアップすることで組織を活性化することができる有効な手段だと思っています。学校にとっては、5年が中期、1年が短期です。長期は10～20年といったところでしょう。

学生諸君にとっては、長期は1年、中期は長期休暇や定期試験ごとのシーズン、短期が1週間になるのではないかと思います。PPPPは考えるだけで何もしない組織、DDDDはやりっぱなしの組織、CCCCの組織は批判ばかりで提案も実行もしない組織。学生諸君が所属する学生会やクラブ活動は、どの分類に入っているでしょうか？ PDCAがうまく回っている組織であれば、何らかの結果がついてきているのではないのでしょうか。是非、長期・中期・短期のPDCAを回し、有意義な学生生活を送ってください。

PDCA等により組織を活性化することは、そもそも、その組織を「継続」させることが目的だと思います。組織が、数十年あるいはそれ以上にわたって「継続」するためには、そこに何かが必要です。私が考える何かは、「変化」です。歴史が物語っているように、どんなに素晴らしいものでも、周りの環境変化に対応しきれなければ、いずれ衰退していきます。すなわち、「現状維持」＝「衰退」を意味します。今年行われる伊勢神宮の式年遷宮は、20年に1度、あえて社殿を建て替え、ご神体を移す決まり事です。20年間隔で「変化」することが、飛鳥時代以来1300年以上もの「継続」につながっているのではないのでしょうか。

来年、本校は創基75周年(高専創立50周年)を迎えます。本校が創基100周年、創立100周年を迎えるためにも、今、どのように「変化」すべきかを、皆さんと共に考えさせて下さい。

留学生紹介



機械工学科 3年・イルマン

はじめまして、私はイルマンです。マレーシアのジョーホル州から来ました。私を入れて4人兄弟で3番目です。2011年の5月から2年間、マレーシアのマラ工科大学の日本語予備学校で日本語と一般科目を学びました。今年の1月に文部科学省の試験を受けて、合格しました。そのおかげで、久留米高専に進学できました。

私の趣味は読書と運動です。日本で一番好きなのはきれいな景色がたくさんあることです。たとえば、桜を見たとき、すごくうれしかったです。日本の技術は世界で、有名です。そして、日本には工場がいっぱいあるし、色々な発明も作られます。日本はとてもすばらしい国だと思いました。それで留学先は日本に決めました。

久留米高専で一生懸命勉強したいです。3年を通じて、勉強のことだけでなく、友達を作り、日本の文化ももっとよく知りたいです。私はこの高専を卒業するまで、皆さんと一緒に楽しい高専生活を過ごしたいと思っています。

よろしくお願いします。



材料工学科 3年・イムラン

はじめまして、私はバングラデシュから来た留学生のイムランです。私は去年の4月頃日本へ来ました。1年間は東京の

日本語学校で日本語を勉強して今年久留米高専へ来ました。家族と離れて外国へ来ることには不安なことがいろいろありましたが、日本に留学して今まで見えなかった日本のいいところや面白いところが分かるようになりました。自分の国のことをよく知るには、自分の国を外から見てみるのが大切だということが分かりました。

私の趣味はクリケットをすることです。そしてサッカーを見ることも好きです。

将来はエンジニアになって、日本で学んだ知識を国の発展に使えればいいなと思っています。そのため、高専での3年間はクラスメートの皆さんと一緒に頑張りたいと思います。先生方もよろしくお願いいたします。

新入生の抱負

「これまでの学校生活を通して」

機械工学科1年 佐藤 伸斗

入学式の日。とても嬉しかった半面、「クラスになじめるかな」とか「勉強についていけるかな」など、いろいろな不安もありました。そんな気持ちを抱えながら(式場である)体育館に入りました。初めて5年間で過ごすクラスメイトと顔をあわせたとき、すぐに男だけだと分かり不安が大きくなりました。その後も、教室に行っても静かで、なかなか慣れませんでした。でも、時間が経つにつれ、いろいろな人としゃべる機会が増え、不安が楽しさ変わっていきました。

そして、夜須研修のときが来ました。夜須に着いて最初にスタンプラリーがありました。スタンプラリーでは班で協力してスタンプを集めたのでとても絆が深まりました。また、同じ部屋の人達ともたくさん夜遅くまでしゃべりました。夜須研修では"見えない"多くのものを得ました。

その後の教室は雰囲気が変わりました。それまで静かだった教室が、しゃべり声が行き交う教室になりました。僕はそんな明るいクラスが大好きになりました。僕はこのクラスで1人前の技術者になれるよう一生懸命、勉強していきます。

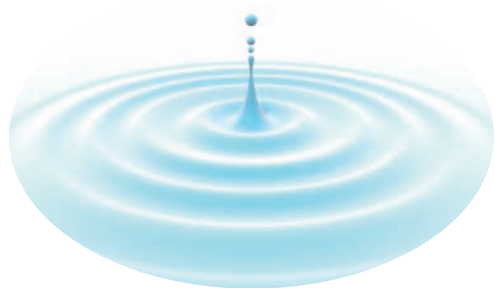
「高専に入学して」

電気電子工学科1年 永満 幸周

電気電子工学についての基礎的な知識と技術を習得することが、私のこの学校で勉強する上での第一の目標です。そのために、自分の時間の管理をしっかりとし、自分に必要なことの学習を積み重ねていこうと思います。また学習を進めていく中で、習得したその知識と技術を更なる高みへ昇華させるために、海外での技術の学習を考えています。なので、今まで以上に英語の学習にも集中していこうと考えています。

そして、自分の空いた時間を活用してソフトウェアに関する知識を深めていこうと思っています。それにより、ハード面・ソフト面の両方において電子機器やその開発を見ていけるようになりたいと思っています。

多くのことを学ぶことによって、より手間なく操作でき、より多くの人が使用でき、より多くの場所で使える、そんな電子機器を研究開発していける技術者・開発者に、将来なれるよう努力していきます。



「新入生としての抱負」

制御情報工学科1年 溝上 智仁

僕の新入生としての抱負は、いろいろな人と仲よくすることです。

僕は昔から友達をつくるのがへたでした。しかし、高専に入ったら勇気を出してがんばってみようと思っていました。

そして、夜須研修のときに、がんばってクラスメイトに話しかけました。すると、笑顔で返事をしてくれました。それをきっかけに、クラスの人たちと話すことができました。

今後は、他の学科の人たちとも話せるようにがんばりたいです。

「高専生活での抱負」

生物応用化学科1年 江崎 百花

私が久留米高専で一番頑張りたいことは勉強です。私にとって高専の授業はついていくのが思ったより大変でした。だから、毎日コツコツ勉強してたくさんの事を学んでいきたいです。

四月の夜須研修では、友達がたくさんできたのでとても楽しかったです。知っている友達の意外な一面も知ることができました。他の学科の人とも話すことができ、良かったです。五年間クラスは同じなので皆で協力して頑張っていきます。

今では高専生活にも随分慣れてきました。

私達はこれから高専でできた友達と切磋琢磨しながらたくさん事を学んでいきます。部活との両立も図りながら、それぞれの夢に少しでも近づけるように日々努力していきたいです。そして、立派な技術者に成長できるようにこれからも頑張っていきたいです。

「夜須研修を終えての感想」

材料工学科1年 梶木屋 翔磨

今回の夜須研修で、僕たちはクラスの仲をよりいっそう深めることができました。また普段の学校生活じゃ見ることのできない友達新しい一面を知ったりもしました。1日目のウォークラリーでは、班の中で意見を交流しあい、工夫をこらしながら険しい道を歩きながらスタンプを集めました。結果発表では材料工学は見事1位に輝き、喜びをクラスの皆で分かち合いました。また、その日は材料工学科の先輩方から高専についての沢山の話を聞く事が出来き、これからの高専生活が本当に楽しみになりました。2日目は学生会の先輩方とレクリエーションをしました。ぐるぐるバットなどをしてとても盛り上がりました。皆楽しそうで、クラスのムードもとても良かったです。この2日間でクラスが一つになったように感じました。

夜須研修を通して、僕たちは沢山のことを得ることが出来ました。またクラスの団結力もとても強まりました。この団結力をどんな時でも発揮し、クラス全体で協力し合うことの出来るようなクラスを僕は目指していきたいと思っています。

新任教職員紹介



松田 康雄（まつだ やすお）
 職名 一般科目理科系 教授
 （平成25年4月1日付）
 前職 明治学園高等学校教諭
 抱負 皆さんと共に数学を楽しみたい
 と思います。久留米市は、江戸
 時代に栄えた数学「和算」と
 ゆかりがある土地です。その
 研究もしてみたいと思っています。
 よろしくお願ひします。
 趣味 数学



青野 雄太（あおの ゆうた）
 職名 機械工学科 准教授
 （平成25年4月1日付）
 前職 九州大学大学院工学研究院
 准助教
 抱負 不慣れで戸惑うことばかりです
 が、明るく自由な雰囲気を感じ
 ています。できるだけ多くのこと
 にトライしたいと思います。
 趣味 ラグビー



加藤 直孝（かとう なおたか）
 職名 電気電子工学科 准教授
 （平成25年4月1日付）
 前職 日本アイ・ビー・エム（株）
 大和研究所
 抱負 健康第一、研究第二、
 世のため人のため第一、
 競争第二
 趣味 山歩き、巡礼
 （坂東33か所を半分終わって、
 九州に来てしまいました。）



WURENTUYA（ウリントヤ）
 職名 電気電子工学科 准教授
 （平成25年4月1日付）
 前職 豊橋技術科学大学大学院工学
 研究科
 抱負 電気・電子情報工学系 助教
 学生一人一人を大切に育てる
 よう、教育研究楽しくやれるよう
 に頑張ります。まだ業務に不慣
 れで、ご迷惑をお掛けすること
 があると思いますが、よろしく
 お願いします。
 趣味 料理 笑点



岩田 憲幸（いわた のりゆき）
 職名 材料工学科 准教授
 （平成25年4月1日付）
 前職 京都大学エネルギー理工学
 研究所 特定助教
 抱負 皆様方には何かとお世話に
 なるかと思いますが、ご指導
 ご鞭撻のほどよろしくお願い
 いたします。
 趣味 旅行、散策、写真、料理、水泳、
 韓国語など



吉田 智博（よしだ ともひろ）
 職名 電気電子工学科 助教
 （平成25年4月1日付）
 前職 JFEスチール（株） 設備部門
 抱負 まだ、右も左も分からず、ご迷
 惑を掛けるばかりかと思ひます
 が、いち早く皆様のお役に立て
 る様に頑張りたいと思ひます。
 宜しくお願ひします。
 趣味 ドライブ、旅行

新任教職員紹介



辻本 功(つじもと いさお)
職名 事務部長
 (平成25年4月1日付)
前職 九州大学財務部経理課長
抱負 高専は10年ぶりの勤務となります。当時と様相が変わっていますが、「主役＝学生」は変わりません。
 事務部門としてしっかり支援していきたいと思っています。
趣味 低山登山、ソフトバンク観戦



吉光 豊(よしみつ ゆたか)
職名 総務課課長補佐(総務担当)
 (平成25年4月1日付)
前職 九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究特別支援室庶務係長
抱負 久留米高専発展のお役に立てればと思います。
 また、楽しく仕事をしたいと思っています。みなさん、仲良くしてやってください。
趣味 マラソン、キャンプ・山登り、ソフトボール



栗原 宏明(くりはら ひろあき)
職名 学生課課長補佐
 (平成25年4月1日付)
前職 有明工業高等専門学校
 学生課課長補佐
抱負 久留米高専と有明高専のお役にたつよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。
趣味 サッカー、釣り、家庭菜園



大庭 弘睦(おおば ひろむつ)
職名 総務課総務係長
 (平成25年4月1日付)
前職 九州大学総務部総務課
 総務第一係主任
抱負 教育現場に非常に近いところで仕事ができるのを楽しみにしています。久留米高専のよいところを吸収するとともに、九州大学で積み重ねた経験を活かして久留米高専の発展に貢献できればと考えています。
趣味 音楽鑑賞、ドライブ、旅行、写真撮影、名酒探し 等



石原 拓(いしはら ひろし)
職名 総務課用度係員
 (平成25年4月1日付)
前職 宇部工業高等専門学校
 総務課契約係員
抱負 一日でも早く久留米高専の環境と業務に慣れ、皆様に御迷惑をおかけせずに済むよう努力して参る所存です。
 これからよろしくお願いいたします。
趣味 ドライブ、旅行



三島 淳一郎(みしま じゅんいちろう)
職名 産学民連携コーディネーター
 (平成25年4月1日付)
前職 熊本高等専門学校
 産学官連携コーディネーター
抱負 皆様のお役にたてるよう、がんばります！
 気軽に声をかけてください。
趣味 FBで情報発信しています。

新任教職員紹介



神野 拓也(かみの たくや)
職名 教育研究支援室技術職員
 (平成25年4月1日付)
前職 日本郵便株式会社
 東市来郵便局
抱負 まだ不慣れで、学生、教職員の方々にご迷惑をおかけすることがあると思いますが、久留米高専になじめるよう頑張ります。
趣味 サーフィンをたまにやりますが、へっぽこです。あと、ボーダーブレイクにお金をつぎ込んでいます。口座までブレイクしないように気を付けます。



屋並 陽仁(やなみ あきひと)
職名 教育研究支援室技術職員
 (平成25年4月1日付)
前職 久留米工業高等専門学校
 専攻科生
抱負 今年の三月まで専攻科生をしておりました。まさかの高専8年目となります。どれだけ高専好きなのかと。
 皆様には電気電子関係の実験でお目にかかります。まだ頼りない部分も多々あるかとは思いますが、学生目線に沿った実験が出来るよう頑張ってお参ります。どうぞよろしくお願い致します。
趣味 写真(撮る方)、車(弄る方)、釣り(海に行く方)、電子機器類の修理や製作、各種創作活動等々。面白そうなことなんでもやります。



天本 美栄(あまもと みえ)
職名 総務課総務係事務補佐員
 (平成25年4月1日付)
前職 基山町立基山中学校
抱負 早く業務を覚えて、皆様のお役に立ちたいと思っています。よろしくお願いします。
趣味 音楽を楽しむこと



松尾 千秋(まつお ちあき)
職名 総務課人事・労務係事務補佐員
 (平成25年4月1日付)
前職 (株)穴吹ハウジングサービス
抱負 まだわからないことばかりで大変ご迷惑をお掛けしております。早く業務を覚えれるように頑張りたいとおもっておりますので、よろしくお願いします。
趣味 DVD鑑賞



野口 千尋(のぐち ちひろ)
職名 総務課財務係事務補佐員
 (平成25年4月1日付)
前職 学習塾講師・教室事務
抱負 ひとつひとつの仕事に対して丁寧！を心構えとして頑張りますので、よろしくお願い致します。
趣味 ぶらり買い物をすること
 本を読むこと



中尾 隆博(なかお たかひろ)
職名 学生課教務係臨時用務員
 (平成25年4月1日付)
前職 水資源機構 総務課
抱負 不器用ですが真面目に頑張ります。
趣味 美味しい米づくり

図書館リニューアルオープン

図書館長 津田 祐輔

久留米高専図書館は、本校の策定した施設長期計画として、平成24年度に耐震改修を含めた全面改修工事が行われました。図書館改修工事は2月26日(火)に完成し、4月5日(金)にオープニング見学会を開催しました。オープニングセレモニーとして、上田校長、津田図書館長、黒木総合情報センター長、松浦学生会長及び長平成25年度本科新入生代表、田中平成25年度専攻科新入生代表の6人によるテープカットが行われ、閲覧室、学習室、免震書架、新たに設置された本校卒業生の直木賞作家「安部龍太郎氏」のコーナーやマルチメディア教室などを見学しました。尚、安部氏の書籍35作品97冊中33作品41冊は安部氏自身から寄贈された物であることを申し添えます。

改修にあたり、留意した点は「学生の学習スペースの拡充」と「情報・マルチメディアとの融合」があげられます。高専の図書館の利用を考慮してみると、一般的な書籍・雑誌の閲覧・貸し出しも重要なのですが、学習スペースとしての需要が大きいです。また、工業高等専門学校と言う特質から情報教育は必須ですので、情報・マルチメディア関連施設を図書館とを融合させたいという願いが以前からありました。今回の改修の結果、1階には閲覧室等の外、個別学習ブース、グループ学習スペースを設け、2階にはIT演習室・語学演習設備としてマルチメディア教室・PC学習室・コンテンツ制作スタジオを設置し、コンピュータを利用した情報処理教育・ネットワーク教育の充実、双方向対応の語学学習システムによる学生の語学力向上とTOEIC取得などを通じた就職活動支援の充実を図っています。また、一般市民へのセミナーや講演のための地域交流多目的室を設置し、学生・教職員・地域社会への学術情報等の効率的な提供も図っています。この様な改修の結果、学生の図書館利用は大きく増加し、外部からの利用申し込みも大きく増加しました。2階にある各種の情報・マルチメディア教室の評判は上々の様です。

最後に、改修工事にあたり、御尽力いただいた関係各位、工事期間中、仮図書室で我慢していただいた学生諸子に深く感謝いたします。



つながる～東亜マイスター高校交流会～

学生会 中央執行委員会 委員長
材料工学科5年 松浦 紅

去る5月20日、昨年に引き続き、東亜マイスター高校との交流会を学生会主催で開催いたしました。総勢120名の学生を迎え、本校からも約50名の学生が参加しました。

まず、オリエンテーションの後、図書館、実習工場、CAD演習室、さらには本校の実演を含む弓道場の4ヵ所のグループに分かれ、本校学生が引率者となって各所の施設見学を行いました。引率してくれた学生は、つたないながらも英語で会話し、伝わらなければジェスチャーも交えるなど、一生懸命に説明をしながら交流を深めていました。

また、映像やパワーポイントを用いた本校の紹介の際、全員が真剣に話を聞き入る姿勢に、同じエンジニアを目指す者としての意識を感じたのではないかと思います。

その後、第一体育館に移動してのレクリエーションでは、本校からはダンス同好会によるパフォーマンスを、東亜マイスター高校からは歌やダンスなどを披露していただきました。お互いの出し物の際に手拍子をしたり、一緒に歌ったりと大いに盛り上がりました。続いて、両校の混合チームを作り、綱引き大会をしました。短い時間ではありましたが、お互いにエールを送ったり、勝てば抱き合って喜んだりとさらに交流を深めることができました。

今回の交流会に参加してくれた本校の学生は、1、2年生が多く、このような機会に積極的に参加する姿勢をととても頼もしく感じました。これからの社会では、グローバルな視点が多く求められるようになると思います。学生会としても、このような機会を無駄にはせず、より多くの学生が参加しやすく、交流を深められるようさらに企画を充実したものにできれば、と思います。

短い時間ではありましたが、笑顔のあふれる交流会となりました。たくさんのご参加とご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。



保護者の皆様への公開授業について

教務主事 和泉 直志

本校の教育に対するご理解を深めていただくこと、お寄せいただいたご感想・ご意見から教育内容や方法の改善を図ることを目的として、保護者の皆様への公開授業を実施しています。この授業公開は、第1回目が平成22年の11月に行なわれ本年度で4回目、平成23年度からは4月に実施しています。過去3回の参加者は、58名、104名、128名でした。

本年度の公開授業は4月22日(月)～24日(水)の3日間実施され、参加者は昨年度と同数の128名でした。学年別の参加者は1年80名、2年30名、3年10名で、3年生までで約94%となり、人数・比率とも昨年度とほぼ同じでした。この数字から学校行事として定着した様に思われます。このうち1年生の保護者の皆様のご参観が学年の1/3近くであったことを、「保護者の1/3の方が」と評価すべきか「保護者の方の1/3しか」と解釈すべきかが問題ですが、平日であることを考えれば前者として、ご関心の高さに感謝申し上げます。

この公開授業では参観者の皆様に、①開催時期、②教員の指導、③学生諸君の真剣さについてアンケートをお願いしています。結果は、時期については97%の方に適切またはほぼ適切と評価して頂いております。教員の指導については、「大変分かりやすかった」と「分かりやすかった」を合わせると90%、学生諸君の授業態度については「大変真剣であった」「真剣であった」をあわせて86%と、何れも概ね高評価を頂戴致しました。

いっぽう、アンケートの自由記述欄では、公開授業の実施方法については、椅子の用意、教室への出入りの難しさが指摘されていました。学生諸君の授業態度について、1、2年生では「とても一生懸命みんなが授業を受けていて安心しました」というような感想が多かったのですが、高学年になると、私語が多い、別のことをしている、などのご指摘がありました。言うまでもなく授業が本校教育の土台となるものですので、真剣に受講するよう指導に努めて参ります。また、清掃ができていないこと、挨拶する学生が少ないことへのご懸念がありました。

本校は「自立の精神」を最重要視していますが、学生諸君は好きなことだけすればよい、教員は放任してよいということではないことを銘記して、ともに日々努めて参りたいと思っています。

平成25年度・九州沖縄地区高専体育大会日程予定表

担当校	種 目	会 場	7月 12日 (金)	・ 13日 (土)	14日 (日)	15日 (月)	19日 (金)	20日 (土)	・ 21日 (日)
熊本高等専門学校 (八代キャンパス)	陸上競技	県営八代運動公園陸上競技場 (八代市新港町4丁目1)						○	○
	ソフトテニス	熊本県民総合運動公園パークドーム熊本 (熊本市東区平山町2972)						○	○
	バドミントン	八代市総合体育館 (八代市緑町11-1)						○	○
	水泳	熊本市総合屋内プール (熊本市南区荒尾2丁目1-1)						○	
	ハンドボール	八代市東陽スポーツセンター (八代市東陽町南1285) ウィングまっばせ (宇城市松橋町大野85)						○	○
都城工業高等専門学校	硬式野球	都城運動公園野球場 (都城市妻ヶ丘町42-1) 小林総合運動公園市営野球場 (小林市南西方2085)					○	○	○
	バスケットボール (男・女)	早水公園体育文化センター(アリーナ) (都城市早水町3867) 都城運動公園体育館(女子第1日) (都城市妻ヶ丘町42-1)		○	○				
	卓球	高城運動公園総合体育館 (都城市高城町穂満坊2492)						○	○
	剣道	都城高専第1体育館 (都城市吉尾町473-1)							○
鹿児島工業高等専門学校	サッカー	国分運動公園 陸上競技場 国分運動公園 多目的広場 (霧島市国分清水309)					○	○	○
	柔道	国分運動公園 武道館 (霧島市国分中央1-14-56)						○	○
	バレーボール (男・女)	牧園アリーナ (霧島市牧園町宿窪田2992)			○	○			
	テニス	熊本県民総合運動公園パークドーム熊本 (熊本市東区平山町2972)	○	○					

担当校	種 目	会 場	11月 9日 (土)	10日 (日)	11日 (月)	12日 (火)
熊本高等専門学校 (八代キャンパス)	ラグビー・フットボール	県営八代運動公園陸上競技場 (八代市新港町4丁目1)	○	○		○



第二回文化部発表会

学生会 中央執行委員会交渉外局 第二回文化部発表会実行委員長
電気電子工学科4年 古賀 光弘

6月22日(土)に第二回文化部発表会が開催されました。前日の大雨と台風で開催自体も心配しておりましたが、無事に当日を迎えることができました。今回はホームルームでのピラ配りを行い校内での広報活動に力を入れました。その効果もあってか、来場者数は900名以上となり、パンフレット、うちの予備がなくなる程の大盛況でした。

今回は文化部コンテストも開催し、第一体育館、第二体育館、ウェーブホールで合計8つの文化部が展示を行い、一番良かったところに投票してもらいました。コンテストの結果、1位は写真同好会でした。すべての文化部にそれぞれの良さが出ており、日頃の活動の成果が表れていました。ステージ発表では、文化部の中から軽音楽部、ダンス愛好会、ピアノ同好会に参加してもらいました。年に一度の発表の場である分、迫力のある素晴らしいものでした。ステージイベントも例年以上の盛り上がりで、特にメインイベントのスマブラ大会では、体育館の盛り上がりが一番でした。一年生コンテストには審査委員として参加しましたが、コントありダンスありの発表を見て、これから的高専が楽しみになりました。どのクラスも楽しそうに参加してくれたことに嬉しさを感じました。

数々の試行錯誤を繰り返し大成功に終わった文化部発表会。たくさんの方々のご協力あってこそ成り立った文化部発表会だったと思います。最後になりますが、ご来場いただいた皆様、文化部発表会にお越しいただき本当にありがとうございました。



クラスマッチを終えて

学生会 中央執行委員会体育局 局長
電気電子工学科4年 川添 健司

5月8日の昼から5月9日にかけて、本校の各所で前期クラスマッチが開催されました。学生の日頃の行いのおかげか、両日とも天候に恵まれどの競技も滞りなく進行していききました。さて、我が校のクラスマッチでは、クラス単位で参加する種目としてサッカー、バスケ、バレーボール、大縄跳びを行っており、その他に女子学生を対象とした競技として女子ドッジボールと女子バレーボールを行っています。今年度に入って初のクラスマッチであったからか、どの競技も白熱した試合が行われており、特に下級生が上級生に対して学年の壁を感じさせないような試合が多く見られました。また今回は、女子バレーボールの参加するチーム数を増やし、各トーナメントをくじ引きにしました。

各競技の優勝チームは、サッカーは2年機械、バレーは5年材料、バスケの1年生の部は制御、2年生の部は機械、3年生の部は機械、4年生の部は機械、5年生の部は機械、大縄は4年生化が28回跳んで優勝しました。優勝チームには金券が手渡され、早速購買に行く学生の姿も見られました。今回勝利することができなかったクラスも、めげることなく後期のクラスマッチでは良い試合をしていただきたいと思います。



学生表彰

① NTTドコモアプリアワード2012

本校プログラミングラボ部に所属する竹中孝介さん(制御情報工学科3年)がNTTドコモアプリアワード2012のファイナリストに選ばれ、作品名「よーみん」が開発部門において優秀賞を受賞しました。

作 品	賞 名	受賞者
よーみん	優秀賞	プログラミングラボ部 3S竹中 孝介

② 高専—長岡技科大 小型風車設計コンテスト

3月13日に長岡技術科学大学で開催された高専—長岡技科大 小型風車設計コンテストにおいて、久留米工業高等専門学校チームが 優秀設計賞(アイデア)を受賞しました。

賞 名	発表者
優秀設計賞(アイデア)	機械工学科3年 石橋 典子 (中武靖仁教授、大津健史助教、原口真弓職員)

③ 日本金属学会

日本金属学会講演大会ポスターセッションにおいて、谷 啓貴さん(材料工学科5年)、橋本翔太朗さん(材料工学科5年)が・第20回優秀ポスター賞を受賞しました。

題 目	賞 名	受賞者
純マグネシウムの結晶粒径と変形挙動の相関	優 秀 ポ ス タ ー 賞	材料工学科5年 谷 啓貴 (周致靈准教授)
TPMでの表面改質によるZrO ₂ ナノ粒子の分散性向上と蛍光特性	優 秀 ポ ス タ ー 賞	材料工学科5年 橋本 翔太朗 (山崎有司准教授、松山清准教授、奥山哲也教授 豊橋技術科学大学 武藤浩行准教授)

④ 日本機械学会九州学生会(3月5日、6日)

3月5日、6日にかけて行われた日本機械学会九州学生会の第44回学生員卒業研究発表講演会において、大・西徹さん(機械・電気システム工学専攻1年)、宮本峻輔さん(機械工学科5年)が優秀講演賞を受賞しました。

題 目	受 賞 名	受賞者
低燃費競技用小型ディーゼル機関の開発	優 秀 講 演 賞	機械・電気システム工学専攻1年 大西 徹
非鉄金属製ボルトの締結特性に関する研究	優 秀 講 演 賞	機械工学科5年 宮本 峻輔

⑤ 電子情報通信学会スマートインフォメディアシステム研究会

廣川真梨子さん(機械・電気システム工学専攻2年)の論文「PCA-L1による部分空間法的高速化」(共著者:黒木祥光准教授)が、電子情報通信学会スマートインフォメディアシステム研究会若手研究優秀賞を受賞しました。

論 文 名	受 賞 名	受賞者
PCA-L1による部分空間法的高速化	若手研究優秀賞	機械・電気システム工学専攻2年 廣川 真梨子

⑥ 日本高専学会

廣川真梨子さん(機械・電気システム工学専攻2年)の論文「グラムシュミットの直交化を用いたPCA-L1の高速化」が、2012年度日本高専学会論文奨励賞において優秀賞を受賞しました。

論 文 名	受 賞 名	受賞者
グラムシュミットの直交化を用いたPCA-L1の高速化	優 秀 賞	機械・電気システム工学専攻2年 廣川 真梨子

※所属・学年は平成25年3月時点



①NTTドコモアプリアワード2012HPから
(左から3番目が竹中さん)



②風車写真



④発表を行う大西さん
本号掲載記事の無断転載を禁止します